

# 臨床のきれはし Sheet9

浅田 英輔

## AUGUMENT

○話し合いにならない世界

議論しにくい世の中である。

人はお互いに理解し、議論しあいながら成長していくものだと思っている。他人を本当に理解するなんてことはできないのかもしれないけれど、いくらかでも理解しようとするし、されたいと思う。誹謗中傷から議論は生まれたいし、そもそも誹謗中傷する人は「誹謗中傷したい」だけであって、議論する気がないということが問題なのだと思う。我々の中にはどうやら攻撃性というものがあり、大義名分の元、暴走してしまうこともままあるようだ。ただ、無用な暴走にはペナルティもあるし、「ごめんなさい」ということもできる。自分の失敗を受け入れながら、他者の失敗も受け入れながら、意見をすり合わせ、よりよい答えを見つけていくのがよいのではないだろうか。

社会だって同じだ。ただ意見をぶつけ合ってもだめで、お互い聞きつつ、批判もしつつ、最終的なよいカタチを作っていくのが理想的だろう。

しかし、実のある建設的な議論ができているのだろうか。きちんと見えるのは自分のまわりくらいであるが、ごくごく身近な「打合せ」では議論ができることも多いように思う。しかし、少し大きな会議になると、途端に議論の場ではなくなってしまう。

「突っ込まれないような無難な資料」を用意し、議論ではなく説明でしかない場合も多いのではないだろうか。

我々の国全体について議論すべき国会があのような様子であるのは象徴的なものかもしれない。この国では、物事を推し進めるために議論は必要なく、反対意見に対しては意味のない長文を返答して黙らせ、強引に採決に持ち込み、数の暴力で押し通してしまうことが「正しさ」なのかもしれない。

議論ができなくなっているのが顕著であるのは、ネットの世界だろう。議論どころか、誹謗中傷ばかりだし、それが目立ってしまっている。

有名人などは、

目立ったところで発言する

→ クソリプだらけ

→ 撤回、謝罪

→ 発言しなくなる

といった流れができてしまっている。

無難なことしか言わない人が増える

→ 目立つことをいう人はたたかれる

→ より無難な発言が増える

となる。無難なことばかり言っていると、物事に変化が起きにくくなる。批判があっても関係なく、自分の主張を続ける人たちもいるが、そういう人たちのもとにはさらに

多くの罵詈雑言が届いていることと思う。好きではない芸能人に「しね」などとメッセージを送るのは理解しがたい。そんな暇とエネルギーがあるなら、好きな芸能人に「すき」って送ったほうが有益じゃない？（それはそれで気持ち悪がられる可能性はあるが）

○クソリプしてる人はヒマなのか

Twitterなどで有名人が一言いうと、正当な批判があるのは喜ばしいくらいで、言いがかりといえるものが非常に多い。

「このお店のケーキおいしい！」などと書いたとすると、

→宣伝ですか？いくらもらってるんですか？（もらってないし、もらっててもオマエに関係ないだろ）

→うちの店はまずいということか？撤回しろ。（そんなこと言ってないだろ日本語嫁）

→病気でケーキを食べられない人の気持ちを考えたことがありますか？不謹慎だ。

（不謹慎警察）

→あなたがおいしいからといって万人がおいしいと思うとは限らない。（だからなに？）

→私はおいしいとは思いませんでした。

（だからなに？）

→30年前からある老舗です。今更ですか？

（だからなに？）

いわゆる「クソリプ」（クソみたいなリプライ）の例として挙げられているものだが、実際にこういうことが起きている。インターネット、メール、SNSは非常に手軽で便利だが、その手軽さゆえ「クソリプ」も手軽にできてしまうのが難点といえれば難点だ。

現実の場面においても、役所仕事をしていると感じるが、文章にしる口頭にしろ、とにかくエクスキューズから始まることが多

い。この場合のエクスキューズとは、「事前の断り」「転ばぬ先の杖」「先にしておく言い訳」「責められる前の予防線」という意味である。

メールを「いつも大変お世話になっております」とか「お忙しいところ恐縮ですが」とかで始めるものもそうだろう。

ネットの世界でもへんな慣習ができていく。Twitterでは「FF外から失礼します」だし、Facebookでは「シェアさせていただきます」だし、これらもエクスキューズのひとつといえるだろう。

※1 「FF外から失礼します」→「フォローしてもされてもいないのに、コメントさせていただきます」の意。Twitterはそもそもそういう仕様なのだから「はじめまして！ねこちゃんかわいいですね！」でいいじゃないか。

※2 「シェアさせていただきます」→素敵な記事などを、自分のページでもお知らせすることを「シェアする」という。いい意味で「仲間にもいいふらす」という感じ。そもそもシェアされたくないものはシェアできないようにできるので、「シェアする」のボタンがあるということは広めていいということ（設定しわすれだなと思うなら、「これシェアしていいやつ？まずそうだけど？」と聞けばよい）。シェアしたことを伝えたいなら「ステキな記事、シェアしました！」でいいじゃん。なんでそんなに下から「シェアしていただく」のよ。いっそのこと「御シェアありがとうございました」くらい言っちゃえば面白いのに。

同様に、行き過ぎた敬語も気になる。「それでは研修会をはじめさせていただきます」などというのは、誰に何をさせていただいているのかと問い詰めたくなる。「開始いたします」で十分ではないのか。「お手元にございます資料の何ページをご覧くださいなのですが、こちらにございますのが例1でございます。こちらにつきましては、皆様ご存じの通りでございまして、大変使いやすくなっております」とかもう「ございませぬ」が耳障りすぎて内容が入ってこない。敬語はそれ自体に情報はなく、情報伝達という意味においては無駄でしかないため、その割合が増えるということは、無駄な時間が増えるということになる。

失敗を受け容れない姿勢、誹謗中傷の多さ、質問に対する的外れな回答、クソリプ、無駄な敬語などを挙げてみたが、どれも、議論を寄せ付けないことに結び付いていると思う。挙げる課題もその結果も、即時性が求められるその場限りのものになる。長期的な視点は重視されず、すぐに成果が見えるものが喜ばれている。

#### ○議論しようぜ

ここまで書いた「議論を求められてない」ということに加えて、即時性が全面に出してしまうと「議論ができないこと」も問題となるだろう。議論が、「どちらの主張が正しいのか、相手を言い負かすこと」となっているのではないだろうか。議論による結論としては、「AかBか決める」といったものになるだろうが、本当は「AのいいところとBのいいところをとって、Cという結論にする」ことが理想的ともいえるだろう。

議論ではなく、ただ自分の意見を言い合っているだけのことも多い。人の意見を取り入れるのがうまくなく、「主張を変える＝敗北」とでも言わんばかりである。非の打ちどころのない、100点満点の答えでなければ受け容れなかったり、「正しいことはひとつでなければならぬ」といった信念があったりする。主張に対する意見も、マイナス面を述べて相手を言い負かそうというだけでは、適切な議論にならない。

世の中って、正解か不正解か、じゃないはずだ。そんなこと誰だって知ってるし、先達として後輩に「世の中とはそういうもんだぞ」と助言していたりもするだろう。私だけが絶対正しいってこともない、っていうことも知っているだろう。でも、人はたまに「絶対にオレさまが正しい!」「落ち度があるオマエが悪い!」としちゃうのだ。

また、人はかわる。「前はAがいいと言ってたけど、今は考えがかわってBのほうが良いと思っている」なんてことも当たり前なのに、「おまえは前はAって言ってたじゃないか!信用できん!」などと、変化するのが当たり前だと知っているくせに、責める材料にしたりもする。

#### ○政治家選ぼうぜ

政治家を選ぶ議論が例になるかもしれない。

「Aさん」→でもあいつ自民党だしな。

「Bさん」→民主党もダメでしょ。

「Cさん」→公明党なんてもってのほか。

「Dさん」→あいつは10年前にひどいこと言ってたんだぞ。

「Eさんの考え方好きだな」→5年前に失言してるからダメだ。

じゃあ誰が清廉潔白で 100 点満点なのよ！と言いたくなる。100%完璧な結論も政治家もいないのだから、自分の意見に近いことを多く言っている人、絶対反対したい主張をしていない人を選ぶのが良いのだろうと思う。(※政策は例です)

例1：この人は選択的夫婦別姓を主張しているから支持したいが、原発再稼働を主張している。これは受け入れることができないから違う人にしよう。

例2：この人は教育改革に力を入れて、水道民営化に反対しているところは賛成。消費税増税の派閥に入ってるけど、そこは仕方ないか。この人を応援しよう。

例3：そもそも何言ってるのかわからない。一貫性を感じられないからこの人はパスだな。

例4：前回、この人は「今の内閣を変える」って言ってたからいいと思ったのに、いまは現政権と同じこと言ってるじゃん。これは受け入れられないな。

譲れないこと、許せないことはあるだろうから、そこはよいとして、例えば、ただ改革すればよいというものではない「教育改革について」「水道民営化について」はさらに議論の余地があるだろう。ここで例えば、国鉄民営化や郵政民営化の功罪を考えてみるといいかもしれない。インフラとして、電気事業はどうだろう？うまくいっているところは？民営化が悪影響を与えたのはどこだろう？と話し合うといいかもしれない。「民営化は悪である」「党として民営化を進めなければならない」というスタンスでは、話が深まらないのである。

## ○主張しようぜ

議論に必要なのは、主張である。これがなければどうにもならない。そして、主張するのは結構めんどくさい。自分の考えを少しまとめ、足りないところは調べ、反対意見も調べてみたりしないと「自分の考えはこれだ！」としにくいからである。「なんとなくすきい」でも構わないのだが、議論の対象にはなりにくい。

「原発再稼働に反対」するのは簡単だ。核の汚染の被害は広く長くかかるからだ。じゃあ、足りない分はどうする？安全性とはなに？今あるものはどうする？廃炉後の対応は？設置している地域の経済は？などなど、考えることはたくさんある。全部を知って意見できるまでいかなくとも、「なんも知らないけどなんかイヤだからはんたーい」では議論にならないのである。

頭から否定せず相手の主張も聞きつつ、自分が調べたことをもとに主張し、意見を伝え、すり合わせることができるといことが増えると、世の中はだいぶよくなるんじゃないか、住みやすくなるんじゃないかと思う。